

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

(第15期 第2年 第2回 第1日)

議事録

1 日時 2025(令和7)年6月15日(日)午後2時00分~5時00分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 25人

(2) アディダヤ ヨザ、イトウ ユリカ キヤレン、ウイ スー ケット、鎌田
アーチマ、ギーゼッケ フロリアン、金 寿瑛、単 望舒、鄭 載勳、
スリニヴァサン スチエタ、スン チン グアン、セネ アイサトウ チンボ、ダオ
テイ ハーイ ハン、張 遙、朴 慧珍、ヒラノ ジヨイミ、ヒリストバ
ガブリエラ、ズニ ホン アン、プストフスキーフ アナスタシア、古谷 史子、
ボソ ミゲル アンヘル、ポラニスキ ピヨートル、楊 子宜、ラハマン ジアウル、
李 詞、ルイス ジェームス

(3) 事務局

小出 課長、三田村 課長補佐、堤 緒方 職員、河田 専門調査員

4 傍聴者 5人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セネ委員長 「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2025年度第2回第1
日を開催する。今日は、欠席連絡はない。まず、日程と配布資料について事務局から
説明をお願いする。」

(事務局三田村課長補佐より資料に基づき説明)

セネ委員長「前回のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局河田専門調査員が資料1に基づき説明)

セネ委員長「何か質問があるか。(なし)では、議事に入る。事務局から説明をお願いする。」

(事務局緒方職員が資料2に基づき説明)

セネ委員長「何か質問があるか。(なし)ではボッチャ大会に外国人市民代表者会議として
参加することに賛成の方は挙手いただきたい。(挙手24人)では参加することが
決定した。では、次にかわさき市民祭りについて、事務局から説明をお願いする。」

(事務局緒方職員が資料3に基づき説明)

セネ委員長「それではかわさき市民祭り3日間の開催期間のうち、1日に参加することに賛
成の人は挙手いただきたい。(挙手25人)では、3日間のうちいずれか1日に参加
することが決定した。それでは、部会審議に移る。全体会の再開は、16時40分と
する。」

【多文化社会部会】

アディダヤ部会長「それでは部会を始める。事務局から説明をお願いする。」

(事務局緒方職員より資料4に基づき説明)

アディダヤ部会長「外国人市民意識実態調査の期間の見直しと、市と区の子育てガイドブ
ックをまとめるという提言候補を提言案にするかどうか審議したい。では意見のあ
る方は挙手いただきたい。」

スリニヴァサン委員「外国人市民意識実態調査より、ウェルカムセットや小学校以降の進路
チャートの方を優先してはいかがか。」

アディダヤ部会長「では、外国人市民意識実態調査について提言候補に残すかどうか決
とりたい。残すに賛成の方、手を挙げていただきたい(0人)。では取り下げること
にする。では次、子育てガイドブックについて意見のある方は挙手をお願いする。」

ゲアン委員「各区役所で標準管理できないという点で、ウェルカムセットと子育てガイドブ
ックは同じ問題だ。様々な異なる部署が各自資料を作り、配布しようとして
区によってもらえる資料が異なるということが起きる。統一化したら、効率がよくな
る。コスト面でも、効率を良くした方がよい。」

アディダヤ部会長「情報がばらばらだから外国人市民が混乱するということを問題と思う
か、あるいは川崎市民として効率的な方法を提案したいということか。」

ゲアン委員「両方である。」

鄭委員「情報がばらばらであったり、重複していたり、不便であるということだろう。こ
の代表者会議では、仮定の話ではなく、実際にどのような困り事があったかという

ことを話す場である。ウェルカムセットのなかに情報が重複していて実生活に困ることがあるか。ないとしたら、特に提言にする内容でもないということではないか。」アディダヤ部会長「では、この内容を提言候補として残すか決をとりたい。取り下げるに賛成の方挙手をお願いしたい。(1名以外全員)では、取り下げることで決定する。提言候補の絞り込みとして、ウェルカムセットと進路のフローチャートについて審議を進める。」

ギーゼッケ委員「ウェルカムセットについて意見を述べたい。外国人市民への情報発信方法について考えるということが重要であり、転入時に配布するだけでなく、リマインドもあればよいと思っていたが、効率やコストを考慮すると不要かと思う。配布内容の標準化については、審議の余地がある。」

鄭委員「小学校以降の進路のフローチャートについて意見を述べる。誰を対象としたもののか確認したいと思う。小学生自身に対するものか、親に対するものか。」

アディダヤ部会長「事務局から説明をお願いしたい。」

事務局総務課職員「子どもと親両方とも、日本の情報を見つけることに苦労するということがあるので、やさしい日本語などで情報のリンク集を作成して提言するということができると思う。」

スリニヴァサン委員「川崎市版の進路フローチャートはないから、それを作成して提言したらいと思う。」

セネ委員「義務教育の期間だけのことか。」

アディダヤ部会長「外国人市民は義務教育ではない。」

ウイ委員「義務教育の先の高等教育を日本で受けたいという外国人市民が増加していることは想像がつく。したがって、フローチャートといったとき、高校や大学、社会人までのものが需要があると思う。」

ハン委員「そもそも外国人にとって、日本の学校の制度がわからない。入学や受験のタイミングもわからない。それらを説明した資料になる可能性がある。」

ルイス委員「小学校の前も含めてはどうか。」

アディダヤ部会長「ウェルカムセットの提言候補について取り下げかどうか決をとりたい。意見があれば受け付ける。」

ギーゼッケ委員「どのようなものでも何か新しく作るというより、探せばあるが、見つけられないということが問題だと思う。その方法として、ウェルカムセットのリマインド送付することや、二次元コードリストにすることや、内容の標準化として定期的に内容のチェックするようなメンテナンスすることについて提言したい。特に発送方法や通知方法については、審議すべきだと思う。」

アディダヤ部会長「では決をとりたい。ウェルカムセットのリマインドを送付することを取り下げることに賛成する人は挙手いただきたい。(挙手多数) では、次に提言する数について決をとりたい。案1は、ひとつだけ。案2は、まずひとつやり、その後時間があればもうひとつ。案3は、ふたつやる。案1は0人、案2は8人、案3は6人という結果となった。したがって、案2のまずひとつやってから余裕があればもうひとつやるに決定する。では、子育てガイドブックのことと、ウェルカムセットのことどちらを先にやるか決をとる。ウェルカムセットを先にやるという方挙手をお願いする(4人)。小学校以降の進路フローチャートを先にやるという方挙手をお願いする(10人)。では、小学校以降の進路フローチャートについて提言案をかためたら、その後ウェルカムセットの提言案を作るという方向で進める。」

事務局総務員「正副部会長会議のなかで、ウェルカムセットを提言としてまとめる場合、区役所窓口でウェルカムセットの配布状況について視察するという話が出ていたので、行くかどうかも決をとっていただきたい。」

アディダヤ部会長「現場施設に行くことに賛成の場合は挙手をお願いする(11人)。では行くことで決定する。」

ゲアン委員「なぜ行く意味があるか。資料を取り寄せ、会議のなかで確認したらよい。」
アディダヤ部会長「実際に自分の目で見ることで、運営状況をよく理解するためだ。時間になったので部会を終了とする。」

【安心生活部会】

単部会長「では時間になったので、部会を始める。今日は振り返りである。事務局から説明をお願いする。」

(事務局河田専門調査員より資料4に基づき説明)

単部会長「質問があるか。(なし)」

鎌田委員「過去の提言のアップデートのような形式になるか。」

ボランティア委員「多言語表示についての審議を深めることが必要だと思う。」

ボゾ委員「多言語にしてほしい情報について絞りこまないと提言にできない。どの情報を何語にしたいか審議すべき。」

ピストラスキー委員「ホームページのこの英語表現がおかしい、ということならいえる。」

ヒリストバ委員「私たちが作ったものを配布してください、というような提言にするとよいと思う。情報はすでにあるものの中から、探すのが難しいということだと思うので、防災関係ならこのような情報があるということを一覧にして見やすくするものを作成して提言したい。」

ボラニスキ委員「ウェルカムセットはデジタル化されているか。」

事務局三田村課長補佐「ウェルカムセットの中身のパンフレットの多くは、デジタルでも閲覧できるものが含まれているが、すべてではない。」

イトウ委員「情報はたくさんあるが、そこにたどり着けないことが課題であるという視点で、外国人市民に対して防災意識を高める多言語ポスターを作成し、内容を二次元コードでも作成すると啓発になる。ウェルカムセットを活用した紙媒体での情報発信も一定の効果があるだろうから、平行して実施できるとよい。」

張委員「外国人市民として、防災の内容で知つておいた方がよいのは、自宅避難や備蓄の考え方だと思う。また、避難した先で外国人市民が困らないように外国人市民災害ボランティアのこととも知らせた方がよい。避難所を運営する職員自身に外国人市民担当を設定することもよい考えと思う。」

楊委員「以前、11月の資料のなかに、避難所にはキーパーソンによるコミュニケーションが重要であるという話があった。インフルエンサーの様な存在が、各地域に外国人でそういう役割の人を避難所に設置すると安心感があるだろう。ボランティアではなくとも、市から委嘱して正式に役割を付与するとよい。」

事務局河田専門調査員「川崎市での同様の取組としては、国際交流センターが実施している災害時外国人支援ボランティアがある。」

単部会長「張さん、避難所は176か所もある。災害が起きたとき、すべてを市の職員がケアできるわけではないから、地元にボランティアなどのコーディネーターがいる」とよいという理解でよいか。」

張委員「その理解であるが、実際何語で対応できるコーディネーターを設置できるかなど実現可能性の点では課題があると思う。」

事務局河田専門調査員「実際の災害発生時には、自宅避難の可能性も大いにあるので、避難所での取組だけを考慮し提言をするのでは、外国人市民に対する啓発として弱いだろう。また、災害時にボランティアが本当に稼働できるかどうか不安がある。そういう場合に備え、過去の提言で、避難所で使う受付シートを多言語で作成し、避難所運営マニュアルに封入してもらったという経緯がある。」

単部会長「クレアの作成した災害時の外国人市民に向けた様々な情報を、市の危機管理本部の関係者や職員が日頃からよく勉強してくれるとよいと思う。また、防災訓練の案内を多言語で作成するという案はよいと思う。」

ブリストスキー委員「日本語があまりわからない外国人市民に対する情報提供と、日本語は問題ではないが既存の情報うまく取れない外国人市民に対する情報提供についてのふたつが課題としてある。どちらを優先して提言を考えるか決めた

らよいかもしない。」

ボソ委員「日本語がわかる外国人市民より、日本語がわからない人たちへの支援を考える方が優先ではないか。」

ヒリストバ委員「日本語がわからない外国人市民に対する支援としても、提言のなかで何語の支援にしほるべきか決めかねるだろう。それよりは、日本語の問題は置いておいて、既存の情報の整理に注力したい。」

ボラニスキ委員「同感である。外国人市民に対してだけでなく、情報を見やすくする提案であれば、日本人市民にとってもいい提案になる。川崎市民全体に寄与する提案になればよいと思う。」

単部会長「もうひとつのテーマである共生コミュニティの形成について、これを単体のテーマとして提言にするのは難しいと思うが、例えば、防災・災害のテーマの下位分野として取り入れることはできると思う。例えば、避難所運営や防災において、町内会・自治会の役割は大きいことから、町内会・自治会について外国人市民の認識を高めることが必要ということを提言のなかに含めることはできると思う。」

張委員「私は、ふたつのテーマを上位と下位に分割するべきではないと思う。」

ヒリストバ委員「具体的にはどのような提言をイメージするか。共生コミュニティの形成のテーマで單独の提言を立てるなら、町内会がありますよという提言にしかならず、主張として弱いと思う。防災を説明するなかで町内会・自治会についても触れる方が自然だと思う。」

張委員「代表者会議で何か、町内会・自治会の機能の代わりというか共存できるものか、何か未来像を掲げて提案できたらと思う。」

ヒリストバ委員「それは理想論ではないか。提言には向かないと思う。」

張委員「議論だけはしてみてもよいと思う。」

単部会長「提言案を絞り込む段階にあるなかで、その議論の時間はないと思う。次回審議が、9月なので、そのときに具体的に共生コミュニティの形成のテーマ単体で提言にするに足る提案があればそのとき、多数決で提言をふたつ立てるか決定することにしたい。」

ヒリストバ委員「町内会が何ぞやという多言語案内をウェルカムセットにいれてもらうということは提言としてあり得るだろう。その場合でも、安心生活部会の提言ではなく多文化社会部会の提言になるのかもしれないがその整理をする必要がある。」

事務局河田専門調査員「ヒリストバ委員の意見では、共生コミュニティの形成のテーマはこちらの部会では落として、多文化社会部会の提言のなかで引き継いでもらうということか。」

ヒリストバ委員「その通りだ。」

ボソ委員「多文化社会部会にテーマごと依頼するのではなく、ウェルカムセットに入れる中身の多言語の案内そのものは安心生活部会で作成してもよいだろう。」

単部会長「ありがとうございます。では、時間になったので部会は終わりとする。」

【全体会】

セネ委員長「全体会を再開する。まずは、安心生活部会から報告をお願いする。」

単部会長「防災・災害と共生コミュニティの形成について審議した。防災については、アプリの多言語化や、地震の避難所運営マニュアルに入っている多言語ツールを更新することや、風水害の避難所運営マニュアルには多言語ツールが入っていないので、新たに入れてもらうという意見があった。また、外国人市民の防災意識を高めるためのポスターを多言語で作成するという案もあった。また、避難するときに支援してくれる外国人の災害時のボランティアを増やすとよいという意見もあった。防災訓練の場で外国人支援を想定した内容も踏まえてほしいという意見も出た。そして、共生コミュニティの形成のテーマについては、単体で提言にできるような内容がないので、このテーマのなかで重要度が高いと思われた町内会・自治会については、防災の提言のなかで町内会・自治会の役割は大きいとして紹介するにとどめることも検討している。」

セネ委員長「何か質問があるか。(なし) では、次、多文化社会部会の報告をお願いする。」

アディダヤ部会長「こちらの部会では、提言をまずひとつやって、時間があればふたつめに取組むことが決定した。まず、進路のフローチャートを整えることと、次にウェルカムセットについて内容の標準例を整える、二次元コードの一覧を付けるなどの意見が出た。ウェルカムセットについては、提言するに先立ち、現場視察も行うことが決まった。実際の窓口での案内の仕方や中身について実際に確認をしたい。」

セネ委員長「何か質問があるか。(なし) では、実行委員会報告に移る。」

スチエタ副委員長「今日の実行委員会で決定したのは、交流会の時間について30分～45分ほどでよいということ。飲食の提供について、飲み物は事務局が用意する食べ物については次回審議する。また、広報のため識字学級に行くことについても決定ということで話した。」

セネ委員長「何か質問があるか。」

イトウ委員「オープン会議の名称をフォーラムとするというアイデアがあったが、検討状況はいかがか。」

事務局総務職員「ご指摘については、追って内部で確認をしてからお伝えする。」

セネ委員長「つづいてニュースレター編集委員会の報告をお願いする。」

ブー委員「レイアウトなどについて話し合った。内容についてはまだ確定していないので引き続き審議する。」

セネ委員長「では交流イベント実行委員会の報告をお願いする。」

スニケット委員「かわさき市民祭りやインターナショナルフェスティバルで披露する出し物について話した。昨年のもので使えるものは今年も活用したい。」

セネ委員長「今日の議事は以上である。」

【事務連絡】

セネ委員長「事務局から事務連絡があればお願いする。(なし) 以上で今日の日程は終了とする。次回は9月7日、日曜日に、ここ国際交流センターで開催する。これで2025年第2回第1日の会議を終わりとする。」